

7 - 1 近畿・中国・四国地方の地震活動（1997年5月～1997年10月）

Recent Seismic Activity in and around Kinki, Chugoku and Shikoku Districts(May,1997-October,1997)

大阪管区气象台

Osaka District Meteorological Observatory, JMA

第1図、第2図は、1997年5月から1997年10月までの大阪管区气象台で決定した地震の震央分布図である。日付け、マグニチュード（以下M）などが付してあるのは、M4.0以上の地震で両域合わせて合計10個発生している。このうち最大の地震は、6月25日の山口県北部（山口・島根県境付近）の地震（M6.1）であった。この地震と、9月4日の鳥取県西部の地震（M5.2）に伴う活動を除けば大阪管内の地震活動は低調であった。

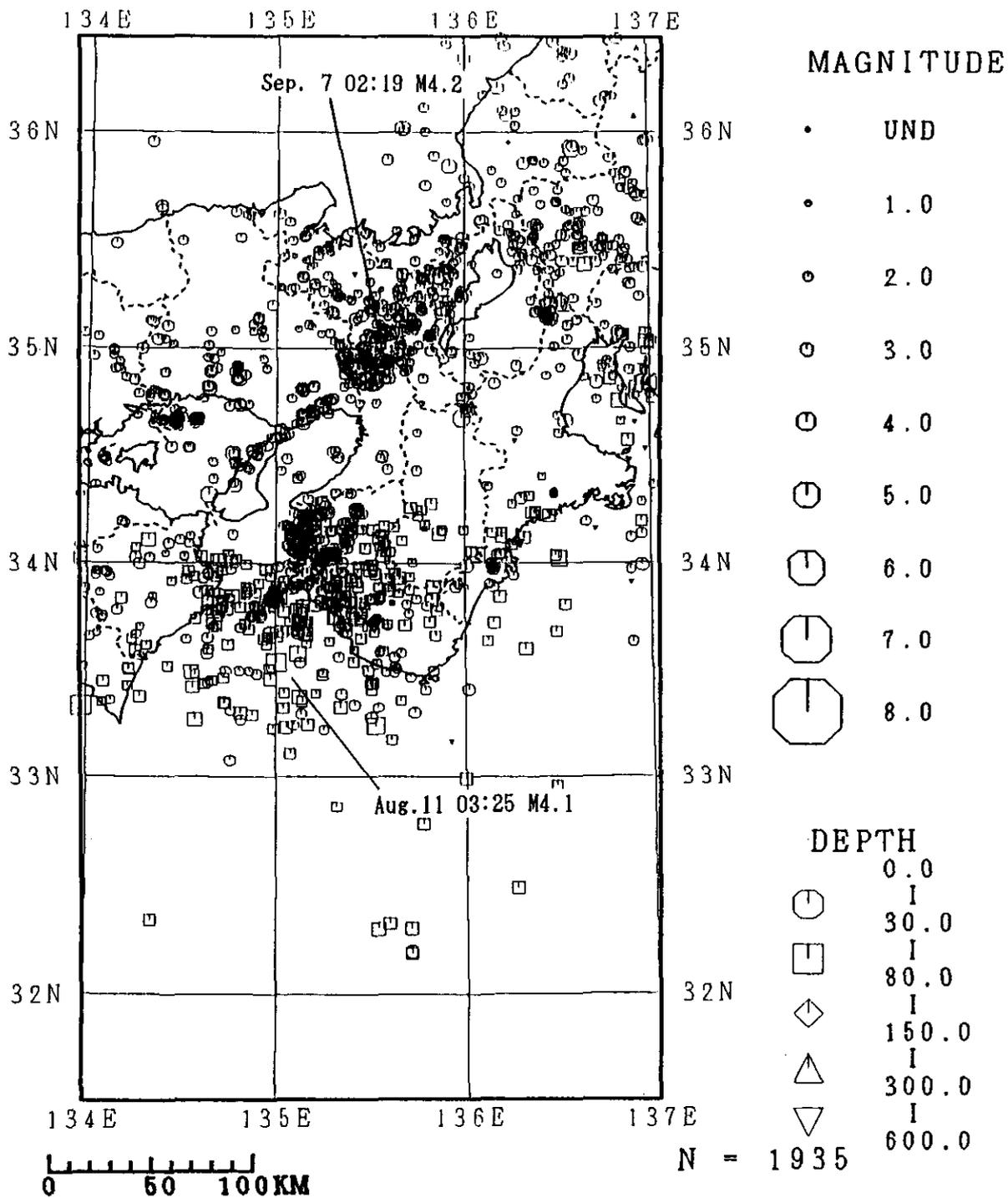
山口県北部（山口・島根県境付近）の地震では、島根県益田市で震度5強を観測したほか、中国地方を中心とした広い範囲で有感となった。大阪管内で震度5強を超える地震は「平成7年兵庫県南部地震」以来である。7月15日までの本震を含む地震回数は513回（うち有感は21回）であった（別項「山口県北部の地震」を参照）。

8月23日鳥取県西部でM4.0の地震が発生し、境港市で震度2を観測した。この地震以降、鳥取県西部を震源域とするやや活発な地震活動が続く中、9月4日にM4.6、M5.2の地震が連続して発生した。この地震により、中国地方を中心とした広い範囲で有感となった（別項「鳥取県西部の地震」を参照）。

四国地方では、豊後水道を中心にフィリピン海プレート内の地震活動が、定常的に高いが特に目立った活動はなかった。8月15日に愛媛県南予地方でM4.0の地震が発生したが、この地震は、本年4月に愛媛県南予地方で群発した活動域から12km程北に離れている。

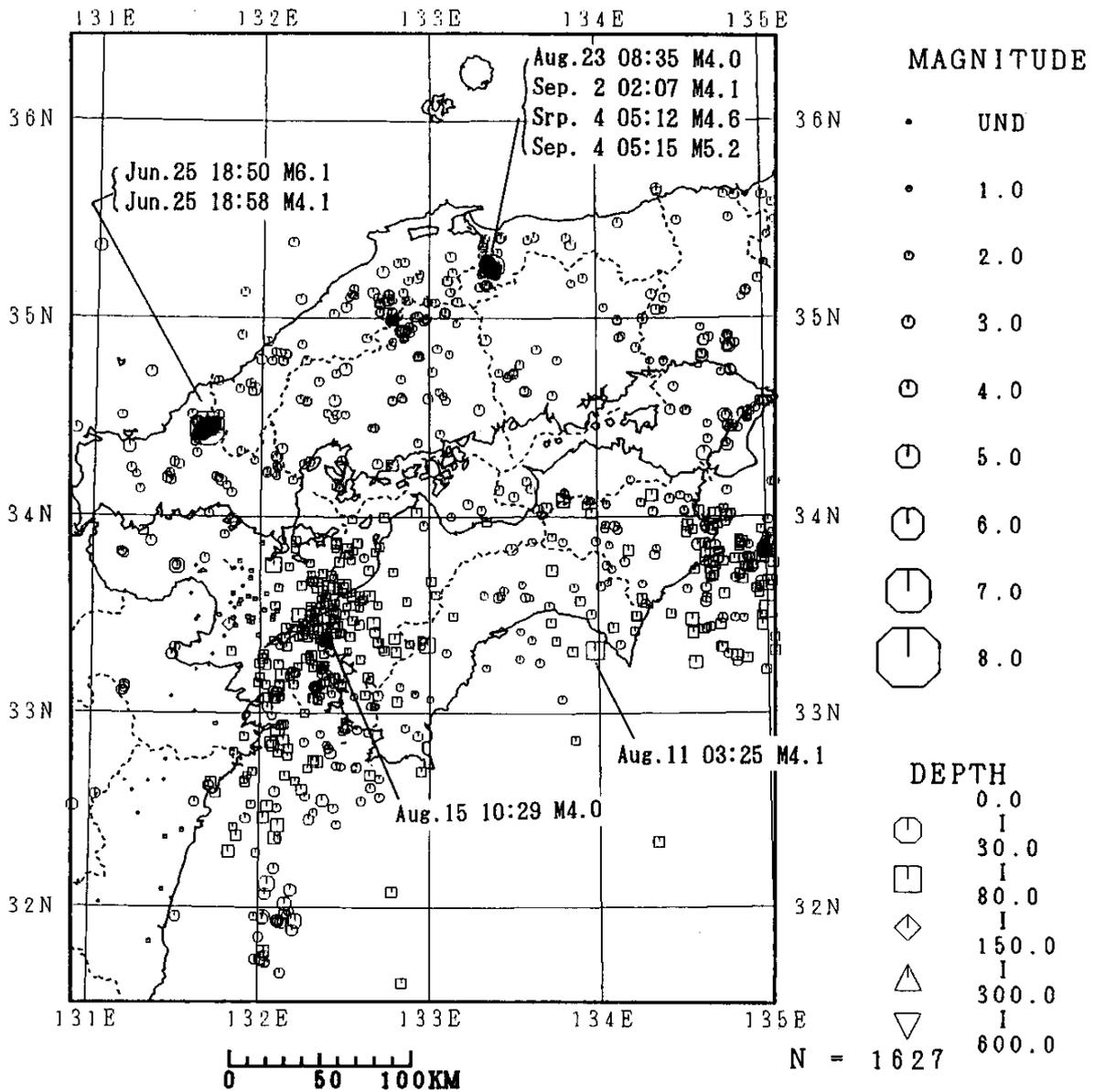
近畿地方では、5月14日兵庫県南東部でM3.5の地震が発生し神戸灘区で震度3を観測した。この地震は、「平成7年兵庫県南部地震」の余震で、震度3を観測したのは1996年5月11日（M3.8）以来である。10月31日までの余震総回数は2644回、有感回数は419回となっている。

9月7日京都府南部の地震（M3.9）では亀岡市で震度3を観測したほか、近畿北部の広い範囲で有感となった。この地震の震源域である大阪府北部から京都府南部と和歌山県北部は、定常的に地震活動の高い地域である（第3図）



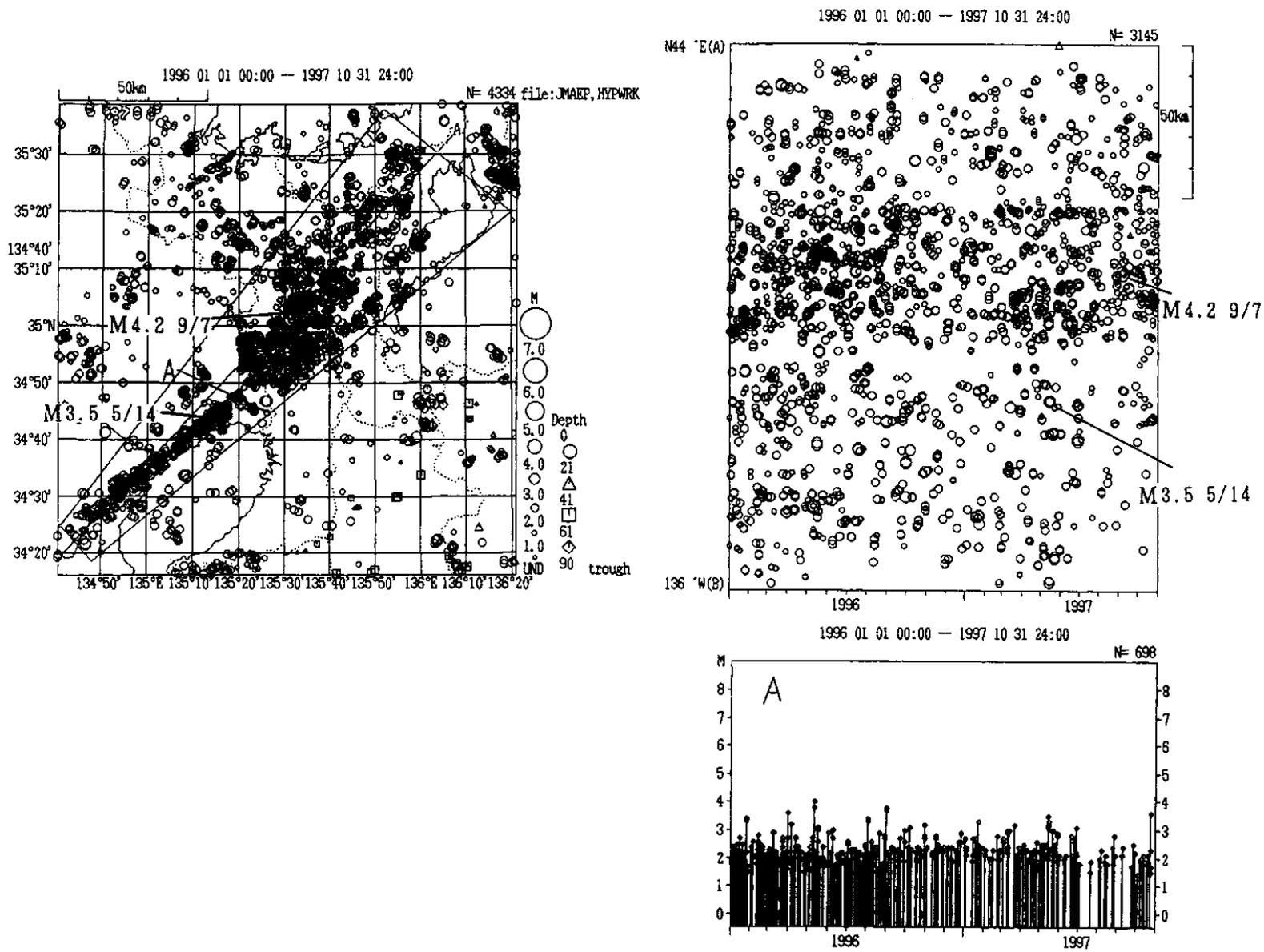
第1図 近畿地方とその周辺の震央分布図 (1997年5月~1997年10月)

Fig.1 Epicentral distribution in and around the Kinki District (May, 1997-October, 1997).



第2図 中国・四国地方とその周辺の震央分布図(1997年5月~10月)

Fig.2 Epicentral distribution in and around the Chugoku and Shikoku Districts (May, 1997-October,1997).



第 3 図 兵庫県南部地震の余震活動と周辺の地震活動

Fig.3 Aftershocks of the 1995 Hyogoken-Nanbu Earthquake and seismic activity of the adjacent region.